琉球大学学術リポジトリ

レンタカーが無くても快適な観光が楽しめる島へ ―宮古島の体験から学ぶ沖縄 MaaS への期待―

メタデータ	言語: ja 出版者: 国際地域創造学部 経営プログラム 公開日: 2023-01-25 キーワード (Ja): レンタカー, 沖縄観光, コロナ禍, 沖縄MaaS キーワード (En): 作成者: 大角, 玉樹 メールアドレス: 所属: 琉球大学国際地域創造学部
URL	https://doi.org/10.24564/0002019610

レンタカーが無くても快適な観光が楽しめる島へ

－宮古島の体験から学ぶ沖縄 MaaS への期待－

Towards Comfortable Islands Even Without Rent-a-Cars With MaaS:

Lessons From My Experience in Miyako Island

大角 玉樹*

Tamaki Osumi

2022 年の夏はレンタカーが沖縄から消えた。コロナ禍で観光需要が蒸発したことから，県内のレンタカー会社は大幅に在庫を減らした。その状況下で，国内の観光客が一挙に沖縄に押し寄せたため，レンタカーが予約できない異常事態を迎えた。沖縄観光の主要な交通手段はレンタカーであり，公共交通機関が脆弱なため，レンタカー無しの観光客は不便を強いられることとなった。本稿では，筆者の宮古島での体験をもとに，車無しでも観光が楽しめるだけではなく，地域住民の移動手段も同時に向上できるような沖縄 MaaS への期待を整理した。

キーワード ： レンタカー　沖縄観光　コロナ禍　沖縄 MaaS

I.　背景　－レンタカーが消えた夏－

2022 年の沖縄の夏は，オミクロン株が猛威をふるっているにも関わらず，国内の観光客が押し寄せたことから，主要な移動手段として利用されているレンタカーが不足するという厳しい状況であった。

海外渡航には，帰国時の PCR 検査陰性が義務付けられていることもあり，また，大幅に円安が進んだことを受けて，2022 年の夏は，多くの観光客が沖縄に押し寄せる結果となった。しかしながら，レンタカーによる自由気ままな移動を楽しみにやってきた観光客にとっては，信じられない現実が待ち構えていたのである。中には，沖縄にさえ行けば，レンタカー程度は現地で借りられるであろうと，航空券とホテルの予約だけを済ませて，そのまま飛行機に乗り込んだ人たちもいるのではないだろうか。残念ながら，コロナ禍で，多くのレンタカー会社が在庫を大幅に縮小し，今年の需要急拡大に新規導入が間に合わなかったために，大きな機会損失を被り，レンタカー会社にとっても観光客にとっても不幸な夏となってしまった。

ところで，レンタカーなしでの沖縄観光はどのようなものなのだろうか。公共交通インフラが脆弱なので，手軽に移動できる範囲は，本島でも，那覇市周辺から北谷辺りまで，離島となるとホテル周辺に限られてしまうことになる。特に離島の場合は，人気観光スポットのほとんどをあきらめざるを得ないのが実情である。果たしてこの夏，レンタカーを借りられなかった観光客は，どのように沖縄

＊ 琉球大学国際地域創造学部　教授，〒903－0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1番地

（2022年9月30日受理）
Management Program @ GRS University of the Ryukyus

観光を楽しんだのだろうか。また，移動手段はどうしたのだろうか。おそらく今後，行政や観光関連機関によるアンケート調査やインタビュー等を通じて，この夏の課題の総括が行われ，改善策や新しい取り組みにフィードバックされていくものと思われる。しかし，そこには，いわゆる有識者や専門家たちの意見は反映されるものの，観光客個々人の視点や思いが取りこぼされていく可能性が高いのではないだろうか。なぜなら，有識者や専門家たちは，自分自身の体験ではなく，他人の体験から抽出されたデータや課題をもとに議論を進めることが多いからである。そこで，この夏の筆者自身の宮古島観光体験を，「レンタカー不足」という観点から整理し，現在展開されている沖縄 MaaS（Mobility as a Service）事業に対する期待を述べてみたい。筆者は，コロナ禍により，県外，海外にでかける機会が激減したことから，沖縄在住であるメリットを活かして，本島だけでなく，離島も含めた，いわゆるマイクロツーリズムを数多く体験してきた。その個人的経験の中から，この夏の「レンタカー不足」をポジティブにとらえ，将来的にレンタカー無しでも十分観光を満喫できる沖縄 MaaS の未来像を探ってみたい。

II. 沖縄観光とレンタカー　ーレンタカー無しではどこにも行けないー

令和 3 年 11 月 29 日に公表された「令和２年度観光統計実態調査」[1]によると，観光客の訪問先は，72.6%が沖縄本島，石垣島と周辺離島が 19.8%，宮古島と周辺離島が 15.1%，そして，島周辺離島が 5.1%）となっている。また，アクティビティーで最も多かったのが観光地めぐりであり 64.7%であった。気になる交通機関は，レンタカーが最も多く 67.2%であり，前回の第三回調査でも 69.5%と高い割合を占めている。旅行形態として最も多いのは個人旅行であり，51.1%となっている。

離島圏である八重山圏域では，人気のあるアクティビティーは，観光地めぐりで 74.1%，レンタカー利用が 60.3%となっており，個人旅行が 54.9%となっている。同じく離島圏である宮古圏域でも，人気の高いアクティビティーは観光地めぐりが最も高く，76.7%，交通機関はレンタカーが 83.3%，そして旅行形態でも個人旅行が最も多く，49.2%となっている。さらなる詳細は，上記調査報告書に譲るが，離島を含む沖縄観光の特徴として，最も人気が高いアクティビティーが観光地めぐりであり，移動手段としてレンタカーの利用割合が非常に高く，また，個人旅行が概ね半数を占める実態が浮き彫りになっていると言えるだろう。

コロナ以前は，右肩上がりの観光需要を受けて，レンタカーの保有台数も急増し，令和 2 年初めには 21,000 台を超えていた在庫も，令和 4 年初めには 15,000 台前後に落ち込んでいる。実に，約 30%の減少である。[2]コロナ禍により観光需要が蒸発してしまったことから，レンタカー会社も大幅に在庫を減らしたことは理にかなっているものの，ゴールデンウィークに観光客が急増し，在庫過剰から一転し，レンタカー不足になることは予測困難であった。その要因は，お金にある程度余裕があり，海外旅行に行きたくても行けない層が，日本の中で最も海外気分を満喫できる沖縄に一挙に押し寄せたこ

とにあると考えられる。この時期から，夏の繁忙期に向けてレンタカー会社がどのような対策をとったかは今後の調査を待つしかないが，結果として，稼ぎ時の 7 月から 9 月にかけて，レンタカー不足が解消されることはなかった。事前に旅行会社がレンタカーパック用やホテル客用に押さえてしまったこともあり，運よく空車があったとしても，軽自動車でさえ一日 2 万円近くの料金設定が提示される異常事態が続いたのである。この状況は離島圏ではさらに深刻であった。筆者は，このような状況下で，7 月，8 月，9 月にそれぞれ一回，宮古島を訪問する機会を得た。8 月は運よくレンタカーを手配できたので，以下では，7 月と 9 月のレンタカー無しの観光体験を通じて，今後の離島における公共交通の課題を考えてみたい。

III. レンタカー無しでの宮古島観光　－主要スポットの現状と課題－

2015 年に開通した全長 3,540 m の伊良部大橋，2019 年に開業した下地島空港の効果で宮古島圏域の観光客は一挙に増加した。筆者自身も，伊良部大橋開通以来，毎年数回，宮古島を訪問してきたが，レンタカーの予約ができなかったのは今年の夏が初めてである。結果として，ほぼ毎回訪れている東平安名埼，西平安名埼，来間島，前浜ビーチや砂山ビーチ，17 エンド（下地島空港の滑走路外周道路）などの定番観光地に足を運ぶことができず，ショッピングセンターや食事に行くにもタクシーを利用せざるを得なかった。ここでは，レンタカーを借りられずに右往左往することとなった 7 月の体験と，レンタカーやタクシー不足に対応し二次交通問題を解決するための宮古島ループバス実証運行（2022 年 8 月 10 日から 2023 年 2 月 28 日までの運行）[3]が開始された 9 月の体験を紹介し，観光客視点から，主要スポットへの移動手段について，現状と課題を整理しておきたい。

1．下地島空港

宮古島の玄関口は宮古空港と下地島空港である。那覇空港発のスカイマーク便は眼下に宮古ブルーの遠浅の海を見下ろしながら下地島空港に到着する。到着後の交通の便は宮古空港の方がはるかに便利だが，遠浅の 17 エンドに向かって下地島空港に着陸する際の機内からの眺めは国内線最強と言われるほどなので，利用することが増えてきた。ただ，県外から乗り入れる航空便には宮古島市街地向けのバスが接続しているが，那覇発 10 時 15 分の SKY541 便で下地島空港に到着すると残念ながら 1 時間半程度待ち時間がある。「空港から，リゾート，はじまる」がコンセプトの空港ということもあり，初めて下地島空港にやってきた人にとっては，南国気分満点で無料 WiFi も利用できる空港ターミナルでの待ち時間は，これからの旅程を思い浮かべながらの楽しい時間となるだろう。

レンタカーの手配ができていれば，到着後，そのままターミナルビルを出て，レンタカー会社のカウンターで必要な手続きを済ませ，すぐに観光地に向かえる。しかしながら，今回のように，レンタカーもレンタルバイクも予約できずに到着すると時間を持て余してしまうのである。ビル内を見渡して

みると，レンタサイクルがあるので，空き時間を利用して近くの 17 エンドや佐和田浜付近に出かけた後，バスに乗り込むのも一手かもしれない。参考までに，みやこ下地島空港ホームページ[4]によると，タクシーで宮古島市街地までは約 25 分で，料金は 3,500 円程度とのこと。中央交通株式会社が運行するみやこ下地島エアポートライナーであれば，市街地まで 600 円なので，一人旅であればたいていバスを利用することになるだろう。ほぼ同じ時間帯に，宮古協栄バス合資会社が運行するみやこ下地空港リゾート線を利用することもできる。前者は観光バス仕様で，後者はローカルバスとなっている。市街地へ向かうのであればどちらのバスを利用しても違いはないが，下地島内で下車する予定があればローカルバスを利用することになる。

海外のように，一定の人数が集まったらホテルや市街地の目的の場所まで行ってくれる，割安の乗り合いバンがあれば利便性が高くなるであろう。空港を発つ際にアプリで事前予約できるサービスであればさらに嬉しい。特に，単なる観光ではなく，出張で出かける際には少しでも早く目的地に着きたいので，今後検討してほしいサービスの一つである。もう一つの玄関口である宮古空港では，空港と市街地を結ぶ乗合タクシー「宮古島くるりんバス」の実証実験を終え，観光客だけではなく地元の人たちの足になることも目的として，4 月から半年間の運行を再開した例もある。下地島空港でも同様の実証実験を開始してほしいものである。伊良部大橋が開通後，とりわけ伊良部島南岸エリアの開発が急ピッチで進み，ホテルやレストランなどが急増していることを踏まえると，近い将来，期待されるサービスになるのではないだろうか。

２．宮古島市街地から伊良部島・下地島

レンタカー無しで，市街地から伊良部島や下地島の人気観光スポットやレストラン等にでかけるのは至難の業である。宮古島を訪問した観光客のほとんどが伊良部大橋を渡り，橋の途中や伊良部島橋詰，いらぶ大橋海の駅付近で記念撮影するほどの人気スポットになっている。令和２年度観光統計実態調査によると，宮古圏域における立ち寄り先で最も人気が高いのが伊良部大橋で，　調査対象の 85.1%が訪問している。筆者も毎回楽しみにしている場所の一つであるにも関わらず，7 月の訪問時には，レンタカーが借りられなかったために快晴という絶好のコンディションにも関わらず，あきらめざるを得なかった。ホテルも郊外の予定だったが，交通の便を考慮して市街地に変更した。この苦い経験を活かして，市街地から伊良部島に行くバス路線[5]を探したところ，みやこ下地空港リゾート線（系統 9 番）を利用して，橋爪広場前で下車すると橋詰付近や海の駅に行く方法があった。バスの本数が少ないものの，現地で 1～2 時間滞在する程度であれば，利用価値の高い路線と言える。また，共和バスが運行する伊良部佐良浜経由平良線を利用すると伊良部大橋を経由し，伊良部島に渡ることができる。しかし，残念ながら伊良部大橋橋詰にバス停がないため，佐良浜港で食事をするか，佐和田浜付近での観光目的に利用が限られてしまう。観光客のために，伊良部島橋詰か海の駅にバス停を新設するか，乗り降り自由な区間を設定して対応して頂きたいものである。できれば，市街地から伊良

部大橋橋詰区間，可能であれば伊良部島南岸エリアを含むオンデマンド・サービスを検討して頂ければありがたい。それが実現すれば，今後レンタカーが不足しても，ある程度観光客のニーズに対応できるはずだ。また，免許証を保有していない層にも喜ばれるサービスになるのではないだろうか。将来的には，観光客だけではなく，島民の足としても利用されるような，伊良部島・下地島ループバスが登場することを期待したい。宮古島市民だけでは採算がとれなくとも，観光客の利用が増えることによって黒字化も可能であろう。できればスマホのアプリと連動した無人自動走行車が登場すると嬉しい。

３．宮古島市街地から池間島・西平安名埼

レンタカーを借りているときには手軽に訪れることのできる池間島と宮古島の北西部に位置する西平安名埼。池間大橋の両側に広がる宮古ブルーの東シナ海や西平安名埼から眺めるサンセットは，何度訪れても飽きることがない景観である。八千代バスが運行する池間一周線（一日 8 便運行）を使うと池間大橋を経て池間島に行くことはできるものの，西平安名埼に行くためには，県道 230 号線から西平安名埼方面への分岐[6]でバスを降り，約２キロ歩かなければならない。野田バス停から終点の漁港前の区間はフリー乗降区間なので，分岐近くで降りることはできるが，車であれば３分程度の道のりを，炎天下の中，30 分ほど歩くのはかなり辛いものである。しかも，７月の日没時間は午後 7 時半ころなので，現地で夕陽を眺めると，帰りのバスに間に合わなくなることもあり，今回の訪問ではあきらめざるを得なかった。もちろん，夕陽にこだわらないのであれば，バスは一日 8 便運航しており，最終バスは漁港前午後 7 時 40 分発なので，市街地に午後 8 時過ぎには戻ることは可能である。せめて，分岐から西平安名埼の区間でシェアサイクルが利用できるのであれば訪問を考えたかもしれないが，現在の交通事情では，立ち寄り先の候補から外さざるをえないのが実情である。池間一周線のバスが西平安名埼にも停まるようになれば非常に便利になると思うので，ぜひとも検討してほしいものである。少なくとも最終便だけでも西平安名埼を経由してほしい。欲を言えば，西平安名埼からは夕陽も朝日も楽しめるので，せめて夏季のピークシーズンだけでも，日の出に間に合う便を追加して頂けないものだろうか。

４．宮古島市街地から来間島・東平安名埼

東洋一の美しさと称される与那覇前浜ビーチ，その正面に位置する来間島，そして島の最東端に位置し，地球の丸さを実感できる東平安名崎を効率的に回るにはやはりレンタカーが便利である。というよりも，レンタカーが無ければ最初から訪問をためらってしまうロケーションである。7 月はレンタカーが借りられなかったことから，これらの観光スポットに立ち寄るのもあきらめてしまった。ただ，レンタカー不足への対応として，8 月からとして宮古島ループバスの実証運行が開始されたことか

ら，9 月に訪問した際には事情が少し改善されていた。宮古島ループバスは，宮古島市の「新しい生活様式の導入を踏まえたバス交通利用促進実証事業」[7]として運営されており，レンタカー利用率が低い中高年層やインバウンド旅行者のために，公共交通中心の交通ネットワークの構築を実現することを目的とした実証事業である。

観光客のみならず市民にとってもメリットのある交通網を狙いとしていることから，市内中心部の「北小前」を起点に，市民が良く利用する「島の駅みやこ」，「イオンタウン南店」，「ドン・キホーテ」，2022 年 6 月にオープンした「サンエー宮古島シティ」を結び，観光客に人気の前浜ビーチ，来間島，インギャーマリンガーデン，東平安名崎等を経て，吉野海岸が終点となっている。多くの観光スポットを回るので，片道二時間強の道のりとなる。料金は一回 500 円で，一日券が 1,000 円とリーズナブルな設定となっている。乗車券は，モバイルチケットアプリで購入（クレジットカードか PayPay での支払い）するか，車内で現金払いとなっている。実際に乗車したところ，バスは通常の大型バスを使用しているにも関わらず，ガラガラだったので，実証事業が終了してからの運行が不安になってしまった。ただ，これまでは，レンタカーの無い観光客がショッピングセンターに行くにもタクシーを利用するしかなかった移動手段に公共のバスが加わったことは非常に嬉しい。おかげで，9 月の滞在中の買い物が便利になり，新規オープンしたサンエー宮古島シティにも立ち寄ることができた。しかも，宮古空港も路線に含まれることから，最終日の交通費の節約につながった。

将来的には，市街地のショッピングセンターや市役所等，市民の生活に密着したオンデマンドバスと，観光スポットの周回を中心とした路線を分けた方が良いのではないだろうか？現在の路線は，まず市街中心部を回ってから観光地に向かう路線となっているため，市街地に用の無い観光客にとっては，少し時間が無駄になってしまう。他方，市民にとっては，直接目的地に向かいたい場合でも，遠回りになってしまうことから，やや利便性に欠ける路線となっている。南城市で運行しているデマンドバス「おでかけなんじぃ」等，他地域のコミュニティーバスを参考に，電話だけではなくアプリでも利用できるサービスを期待したい。「おでかけなんじぃ」はスマホ操作に慣れていない高齢者を対象にしているのか，それともシステム構築費用の捻出が難しいのか，現在のところ，電話予約のみとなっている。アプリで予約できるようになれば若年層にも利用が拡大し，採算性も向上するのではないだろうか。

IV. レンタカーが無くても観光が満喫できる島へ　－沖縄 MaaS への期待－

以上，筆者のレンタカー無しの宮古島体験から主観的ではあるが現状と課題を整理した。上述した通り，宮古島圏域の観光客の属性は，個人旅行が約半数で，レンタカー利用が 8 割を超え，最も人気の高いアクティビティーが観光地巡りであり，ちょうど筆者もこの属性に分類される。したがって，今回のレンタカー無しの二回の観光は，個人的な体験ではあるものの，そこで感じた不満の多く，特に公共交通機関に対する不満は，宮古圏域を訪れる観光客にも共通する部分が多いのではないだろう

か。沖縄県も毎年，観光客に対するアンケート調査を実施し，結果を公表しているものの，観光客個々人に対する詳細なインタビューは行われてはいない。おそらく，この夏に来沖したにもかかわらず，レンタカーを手配できなかった観光客にインタビューすると数々の不満が噴出するのではないだろうか？本稿は，それらの観光客の不満と要望を代弁しているとまでは言えないが，公共交通機関が脆弱な沖縄，特に離島の交通課題を観光客の視点から把握する一助にはなるかもしれない。沖縄本島でもレンタカーが予約できない状況は同様であり，一般の人が所有する車のカーシェアリングサービスが注目を集め，今後も利用者が増えそうな気配である。また，恩納村のおんなの駅から本部や人気の古宇利島方面への無料リムジンバスも運行されたものの，抜本的な課題解決には程遠い実情である。何よりも，那覇空港からの二次交通がパンク状態であり，空港に到着してからの観光客の利便性が著しく低下しているため，このままでは今後のインバウンドに対応するのが困難になっている。現在進められている沖縄 MaaS 事業が，県民と観光客の交通の利便性を同時に高め，レンタカー無し，車無しでも，あるいはさらに進めて，車が無い方が快適な島を実現する方向で展開されることを期待したい。近い将来は,自動走行車や空飛ぶ自動車等も導入し,快適で安心安全な島内移動が担保されることを楽しみにしている。

---

[1] 令和 2 年度観光統計実態調査に関しては，https://www.pref.okinawa.lg.jp/site/bunka-sports/kankoseisaku/kikaku/report/tourism_statistic_report/r2_resident_sntiment_survey.html を参照。

[2] レンタカーの保有台数の推移と増車が間に合わなかった事情に関しては，NHK オンラインビジネス特集「異例の事態 レンタカー争奪戦！？浮き彫りになった沖縄の弱点」（2022 年 8 月 23 日掲載）が詳しい。

[3] 宮古島ループバスの路線等に関しては，https://miyakoislandbus.com/を参照。

[4] みやこ下地空港のホームページの URL は，https://shimojishima.jp/。

[5] バス路線と時刻表に関しては，例えば，「宮古島 style」(https://www.miyakojima-style.jp/bus-routes/)が参考になる。

[6] この分岐には特に名称はついていないが，宮古島市街地から向かうと，右手に進むと池間大橋，左に進むと西平安名埼に向かう地点である。

[7] 同事業の報告書は，https://www.city.miyakojima.lg.jp/soshiki/shityo/kikaku/tyousei/oshirase/files/04_houkokusyo.pdf に掲載されている。